

## 再評価結果（平成31年度事業計画箇所）

担当課：道路局環境安全・防災課  
担当課長名：野田 勝

事業名：一般県道 津田インター線	事業区分：地方道	事業主体：徳島県
起終点：自：徳島県徳島市津田本町 至：徳島県徳島市津田海岸町	延長：1.5 km	
事業概要： <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、四国横断自動車道と連結する「(仮)津田IC（地域活性化IC）」のランプ部を整備するとともに、ICアクセス道路となる既存道路を改良するものである。</li> <li>・津田インター線は、四国横断自動車道と徳島小松島線を連結する路線である。</li> </ul>		
H27年度事業化	H29年度用地着手	H29年度工事着手
全体事業費：30億円	事業進捗率：約64%	供用済延長：— km
計画交通量：5,900台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 3.1	総費用 (残事業/事業全体) 17/30 億円 (事業費：17/29 億円) 維持管理費：0.13/0.13億円
	総便益 (残事業/事業全体) 53/53億円 (走行時間短縮便益：40/40 億円) (走行経費減少便益：11/11 億円) (交通事故減少便益：2.8/2.8億円)	基準年：平成30年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.6~2.0(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.6~2.0(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.7~1.9(事業期間 ±20%)		
(残事業) 交通量：B/C=2.8~3.4(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.8~3.4(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.9~3.2(事業期間 ±20%)		
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 四国横断自動車道と連結する(仮)津田ICのランプ部を整備するとともに、ICアクセス道路となる既存道路を改良することにより、四国横断自動車道と一体となって整備効果を早期に発現させる。</li> <li>■ 四国横断自動車道と連結することにより、木材団地として整備された「重要港湾 徳島小松島港（津田地区）」の活性化を支援し、当該地周辺に新たな産業・流通拠点を創出させるなど、ストック効果の最大化を図る。</li> </ul>		
関係する地方公共団体等の意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 徳島市、津田コミュニティ協議会、津田木材団地連合会等より、「津田地区における追加IC設置とともに整備促進」が要望されている。</li> </ul>		
事業評価監視委員会の意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続を妥当と認める</li> </ul>		
事業採択時より今評価実施までの周辺環境変化等 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 四国横断自動車道「徳島東～津田間」が平成32年度に供用（公表）</li> </ul>		
事業の進捗状況、残事業の内容等 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 用地取得率約95%、事業進捗率約64%</li> </ul>		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本線部の平成32年度供用（公表）との同時供用に向け、ランプ部の橋梁工事を推進していく。</li> </ul>		
施設の構造や工法の変更等 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今後も、工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。</li> </ul>		
対応方針：事業継続		
対応方針決定の理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の必要性、重要性も高く、費用対効果の投資効果も便益が費用を上回っているため。</li> </ul>		
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。